

2018年1月4日

日本ユニシスグループ 平岡 昭良、社長年頭所感

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2018年3月までの中期経営計画「Innovative Challenge Plan」に取り組む中で、わたしたち日本ユニシスグループは、確実に変わりつつあります。イノベーションを生み出す企業風土・人材改革が進み、ビジネスエコシステムの創出は倍増し、拡大・成長しています。

社会課題を解決していくビジネスエコシステムには、無限にビジネスの種が眠っており、わたしたちのアプローチを待っています。

今年60周年を迎える当社は、生まれ変わる節目にあります。支えてくださる皆さまと共に、今の挑戦の先に光り輝く未来社会という夢を描き、100年目にむかって進んでいく決意です。

わたしたちは、確実に変わりつつある

● イノベーションを生み出す企業風土・人材改革が進む

「生産性向上」から「ビジネス革新」へと市場ニーズは変化しています。当社は、ビジネスをデザインできるビジネスプロデューサー人材の育成に力を入れており、その数は既に300名を超えました。またイノベーションの創出・加速のためにダイバーシティを活かし、経営、グローバルビジネスへの挑戦、スタートアップの輪に参画するなどの社外アセットの活用を進めています。

● ビジネスエコシステムの創出、倍増

現中計の3年間、将来の持続的発展を見据え、さまざまな種まきをおこなってきました。2017年は、決済サービス・海外へのチャレンジ、持続的なイノベーションをめざして3つの新会社「チャンネルペイメントサービス」「チャンネルグローブ」「チャンネルベンチャーズ」を設立し、ファンドも立ち上げました。ビジネスエコシステムの創出は前年度比で倍増し、拡大・成長しています。失敗なくしてイノベーションは生まれません。「成功のKPIは失敗の数」と社員を鼓舞し挑戦を続け、今後は、挑戦を収益に確実に結びつけていくことをめざします。

わたしたちは3年前、「変わる」という選択をしました。その選択が間違いではなかったと、お客さまをはじめとしたステークホルダーの「期待」の変化を肌で感じる日々の中で、確信しています。

社会課題を解決していくビジネスエコシステムには、無限の可能性がある

IoTやAI、ロボティクスといった新たなテクノロジーの浸透、デジタル化の進展や法規制の緩和に伴い、経済のあらゆる領域において「破壊的イノベーション」が進んでいます。一方で、社会には、環境・医療・教育・防災・地域活性化など解決すべき課題が山積しています。社会課題を解決していくビジネスエコシステムには無限にビジネスの種が眠っており、わたしたちのアプローチを待っています。ビジネスエコシステムの創出により破壊的イノベーションを起こすことで、新しい社会をつくっていくことができると信じています。

2018年3月、日本ユニシスは60周年を迎えます。今年入社する新入社員が定年を迎える頃には、100周年がやってきます。そこで日本ユニシスグループの歴史を振り返ったとき、「2018年が生まれ変わる節目の年であった」と言えるようにしたいと考えています。

お客さま、社員、株主・投資家、パートナー、そして一般消費者の方々など、わたしたちを支えてくださる皆さまと共に、今の挑戦の先に光輝く未来社会という夢を描き、100年目にむかって進んでいく決意です。

以上

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※関連 URL :

日本ユニシスグループ 中期経営計画「Innovative Challenge Plan」を公表

http://www.unisys.co.jp/news/pdf/nr_141201_innovative_challenge_plan.pdf

日本ユニシスグループとお客さま、そして社会を結ぶデジタルメディア CU (Club Unisys)

<https://cu.unisys.co.jp/>

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。